

教育研究業績書

所 属	職 名	氏 名	学 位
現代文学部文化コミュニケーション学 科	准教授	山川 仁子	博士(学術)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
(1) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)			
現実に即した」教育の実践 (レアリアを積極的に用いた教育)	1998年6月～現在	NEC九州で開講した中国人研修生向け「日本語」コース(非常勤講師), および熊本県立大学で開講した「留学生日本語A-1(発音・会話)」(非常勤講師), 尚綱大学で留学生向けに開講している「初級総合日本語Ⅰ・Ⅱ」「日本語Ⅲ」「聴解・会話Ⅰ・Ⅱ」において, 現実に即した発音練習・会話練習ができるよう, 実際の地方ニュースや講義を録音・録画して教材を作成し, 聴解・発音練習を行った。また, 日常生活で頻繁に耳にする方言を授業に取り入れて聴解・発音練習を行い, 留学生が地域社会へ適応できるような手助けを積極的に行っている。	
「気づき」と「フィードバック」を目的とした学生相互評価の実践	2003年4月～現在	ヒューマンアカデミー日本語教師養成講座で開講した「初級実習」「中上級実習」「初級指導法」, 愛知淑徳大学人間情報学部で開講した「文献講読演習」「基礎ゼミ」, 尚綱大学文化言語学部で開講した「スタディスキルⅡ」「クリティカル・リーディング」「多文化共生論」等で, 成果報告・研究発表の際, 発表内容および発表方法について, 評価用紙を用いて学生全員によるピアレビューを行った。結果は発表者にフィードバックした。これにより, 発表者・評価者双方のプレゼン内容およびプレゼン力の向上に効果がみられた。	
フィードバックによる講義内容の定着 ・「一言コメントカード」による質問受付 ・レポート課題へのフィードバック ・クラス全体での振り返り	2010年4月～現在	愛知淑徳大学人間情報学部・健康医療科学部および尚綱大学文化言語学部・生活科学部で開講した講義全般において, 毎回, 講義内容に関する質問を質問用紙にて受け付け, 翌週の授業で受講者全員に向けて解説・補足説明を行った。これにより, 授業への積極的な参加を促すとともに, 講義内容の理解と定着を図った。課題を課す授業においては, 提出課題やレポートにコメントをつけて返却し, こまめなフィードバックを行った。さらに, 完成度の高い課題やレポートを受講生全員に示して, 良い点を説明し, 受講生全体の内容理解に努めた。	
「見て学ぶ」教育の実践(視覚教材の利用)	2010年4月10日～現在	愛知淑徳大学健康医療科学部で開講した「音響学・聴覚心理学」や「音響音声学特論」, および尚綱大学文化言語学部・現代文化学部で開講した「音声言語」では, テキストだけでは分かりにくい口腔内の動きについて, 内視鏡動画・MRI動画などを用いて視覚的に提示し, 講義内容への興味, 関心および理解の向上を図った。	
聴能訓練の実施	2010年4月10日～2014年9月20日	愛知淑徳大学健康医療科学部で開講した「音響学・聴覚心理学」では, 「高さ」「大きさ」「音圧レベル差」などの音響的差異を聴き分けるトレーニング(聴能訓練)を毎時間行い, 将来, 言語聴覚士として活動する上で最低限必要な音響的知識を感覚的に身につけさせた。	

主体的な学びの促進を狙った初年次教育科目「基礎ゼミ」の教材開発	2015年3月	主体的・能動的学修の促進を主眼とし、大学における学修のスタートを総合的にサポートする初年次教育科目「基礎ゼミ」の教材を開発した。履修者に対するアンケートの分析から、主体的学修の促進については学生個々の意識として感じられるまでの効果は確認できなかったが、論理的思考力の向上やグループワークを通じた能動的学修方法の修得については一定の効果を確認できた。大学における学修のスタートをサポートする目的は概ね達成された。 成果を愛知淑徳大学論集—人間情報学部編、第5号、pp.15-27(國分三輝, 山川仁子, 牧勝弘, 村主朋英, 森博子, 親松和浩)にて発表した。
異文化トレーニング(体験型学習)の実践	2015年4月7日～現在	尚絅大学文化言語学部・現代文化学部で開講した「異文化理解」および「多文化共生論」で、シミュレーションゲームやロールプレイ型ディスカッションなど用いた異文化トレーニングを行い、多文化共生・異文化の疑似体験をさせた。これにより、「価値観・偏見・自文化中心主義」など多文化共生社会における異文化理解において最も重要なキーワードを体験的・実践的に学ばせることができた。
Google Classroomsを活用した授業の実施	2019年4月～現在	尚絅大学で開講しているすべての科目において、Google classroomを用いて授業を実施した。オンデマンドによる遠隔授業の実施や、課題提示および、課題へのフィードバックを行った。また、Google formの機能を使った、確認テストやミニ実験などを行った。通常よりも早く・こまめなフィードバックが可能であるため、例年よりも高い学習効果が得られた。
(2) 作成した教科書・教材・参考書		
『第7次教育課程運営支援을 위한中等日本語教育課程-特技・適性職務研修-』テキスト	平成14年1月15日	全羅南道教育研修院, 全南研修2001-43, 「日本語の発音」pp.45-60 韓国全羅南道教育研修院主催「特技適正授業(日本語)担当高校教師研修」で使用するテキストにおいて、「日本語音声学」の部分を担当・執筆した。
『心理実験演習Ⅰ・Ⅱ』(心理実験演習用教材)テキスト	2011年4月1日	著者:天野成昭, 高橋伸子, 高原美和, 牧勝弘, 安田恭子, 山川仁子, 加藤みわ子, 行松慎二 愛知淑徳大学人間情報学部2年生選択必修科目「心理実験演習Ⅰ・Ⅱ」のために作成した。心理統計法, 統計ソフト操作方法, 実験レポートの書き方, 実験の心得などを1冊にまとめた。
『心理実験演習 マニュアル(改訂)』(心理実験演習用教材)テキスト	2014年4月1日	著者:天野成昭, 牧勝弘, 安田恭子, 山川仁子, 加藤みわ子, 行松慎二 愛知淑徳大学人間情報学部2年生選択必修科目「心理実験演習Ⅰ・Ⅱ」のために作成した。心理統計法, 統計ソフト操作方法, 実験レポートの書き方, 実験の心得などを1冊にまとめた。レポートの書き方や課題などを改訂した。
『人間情報学部 基礎ゼミ2014』テキスト, 教師マニュアル	2014年4月1日	共著者:人間情報学部基礎ゼミ準備委員会(親松和浩, 國分三輝, 牧勝弘, 森博子, 村主朋英, 山川仁子) 愛知淑徳大学人間情報学部1年次必修科目「基礎ゼミ」(2014年度開講)のために作成した。「クリティカルシンキング」(主担当), 「効果的プレゼンテーション」(副担当), 「施設利用案内」(主担当), 「卒論執筆要項」(主担当)の執筆を担当した。また, 複数教員で同質の教育が展開できるよう, 各課の学びの目的・指導上のポイント, 事前準備などを示した教師マニュアルも併せて作成した。
(3) 教育方法・教育実践に関する発表・講演等		
(4) その他教育活動上特記すべき事項		

東北大学大学院公開ゼミ外部講師	2008年2月	東北大学 電気通信研究所にて「外国語としての日本語－日本語難発音を対象にした日本語音声分析」というタイトルで講演した。
早稲田大学国際教養学部公開ゼミ外部講師	2009年9月	早稲田大学国際教養学部にて「外からみた日本語」というタイトルで講演した。
尚絅大学文化言語学部公開講座 講師	2015年10月3日	尚絅大学文化言語学部公開講座にて、「音声でコミュニケーション」というタイトルで講演した。
台湾慈濟大学東方語文学部外部講師	2017年9月	台湾・慈濟大学東方語文学部にて、学生および教員向けに日本語教育関連の講義・講演を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
第7次教育課程運営支援을 위한中等日本語教育課程-特技・適性職務研修-テキスト	共著	2002年1月	全羅南道教育研修院, 全南研修2001-43, 韓国	全羅南道教育研修院編, <u>山川仁子</u>	pp.45-60
Computer Processing of Asian Spoken Languages	共著	2010年3月	Consideration Books, USA, ISBN 978-0-935047-72-1	Shuichi Itahasi, Shiu-yu Tseng編, S. Itabashi, <u>K. Yamakawa</u> , T. Osuga	pp.73-76
総合版ハンドブック「知識ベース」	共著	2012年4月	電子情報通信学会, 東京	電子情報通信学会編 板橋秀一, 大須賀智子, <u>山川仁子</u>	2群7編4章5節 pp.13-15
(論文)					
Subjective evaluation of Japanese voiceless affricate spoken by Korean	共著	2006年7月	Journal of the Acoustical Society of Japan, Vol.27, No. 4	◎ <u>K. Yamakawa</u> , Y. Chisaki, T. Usagawa	pp. 236-238
(本誌付) 音声言語コーパスの現状と課題 (査読付)	共著	2009年8月	電子情報通信学会誌, 92巻8号	板橋秀一, <u>山川仁子</u> , 大須賀智子	pp.676-681
Perception boundary between fricative and affricate in Korean speakers	共著	2010年11月	Journal of Acoustical Society of America, Vol. 128, No.4	◎ <u>K. Yamakawa</u> , S. Amano	p.2352
(本誌付) Variables to discriminate affricate [ts] and fricative [s] at word initial in spoken Japanese words (査読付)	共著	2012年5月	Journal of the Acoustical Society of Japan, Vol. 33, No.3	◎ <u>K. Yamakawa</u> , S. Amano, S. Itahashi	pp.154-159
破擦音[ts]と摩擦音[s]の生成範疇境界に対する発声速度の影響	共著	2013年3月	愛知淑徳大学論集－人間情報学部編一, 第3号	◎ <u>山川仁子</u> , 天野成昭	pp.21-25
Discrimination between fricatives and affricates pronounced by Japanese native speakers at various speaking rates. (査読付)	共著	2013年12月	Journal of Acoustical Society of America, vol.134, issue 5	◎ <u>K. Yamakawa</u> , S. Amano	p.4071
日本語母語話者と非日本語母語話者の音声の知覚的区別	共著	2014年3月	愛知淑徳大学論集－人間情報学部編一, 第4号	◎ <u>山川仁子</u> , 天野成昭	pp.15-19

Variable to Discriminate Voiceless Affricates at Word Initial in Read and Spontaneous Japanese Speech (査読付)	共著	2014年4月	音声研究, 第18巻第1号	◎K. Yamakawa, S. Amano	pp.40-44
Development of Japanese read-sentence database for non-native speakers of Japanese	共著	2015年3月	愛知淑徳大学論集—人間情報学部編, 第5号	◎K. Yamakawa, S. Amano	pp.9-14
主体的な学びの促進を狙った初年次教育科目「基礎ゼミ」の開発	共著	2015年3月	愛知淑徳大学論集—人間情報学部編, 第5号	國分三輝, 山川仁子, 牧勝弘, 村主朋英, 森博子, 親松和浩	pp.15-27
Discrimination of Japanese fricatives and affricates by production boundaries in time and spectral domains: A case study of a female native speaker	共著	2016年7月	Journal of the Acoustical Science and Technology, Vol.36. No. 4	◎K. Yamakawa, S. Amano	pp.296-301
スキー場の拡声放送に使用される単語の出現頻度・単語親密度・難聴取音素数の調査	共著	2018年3月	尚綱大学研究紀要第50号 A. 人文・社会科学編	◎山川仁子, 天野成昭	pp.109-116
日本語の無声破擦音・摩擦音を表すハングル表記の知覚的妥当性検討(일본어의 무성 파찰음·마찰음을 나타내는 한글 표기의 지각적 타당성 검토) (査読付)	共著	2018年3月	日本語學研究, 韓国日本語学会, 第55号	◎山川仁子, 天野成昭	pp.127-139
外国語の拡声音声による情報伝達に関する基礎調査	共著	2019年6月	電気通信普及財団研究調査情勢報告書, 第34号(3. 情報通信に関する社会科学分野及び技術分野の両分野に跨る研究調査)	◎山川仁子, 天野成昭	pp.1-7
非日本語母語話者による日本語音声の自然性の原因解明に向けた音響解析	共著	2020年3月	尚綱大学研究紀要第52号 A. 人文・社会科学編	◎山川仁子, 天野成昭	pp.157-162
(その他)					
【過去5年間の主な学会発表(第一著者分のみ掲載)】					
Acoustic feature representing the unnaturalness of Japanese spoken by non-native speakers(査読付)	共著	2016年6月	8th International Conference on Second Language Speech, Aarhus University, Denmark	◎K. Yamakawa, S. Amano	
非日本語母語話者が発声した日本語音声の自然性に関わる音響特徴	共著	2016年9月	日本音響学会2016年秋季研究発表会講演論文集, 富山大学	◎山川仁子, 天野成昭, 近藤真理子	pp.129-130,
Japanese singleton and geminate stops mispronounced by non-native speakers	共著	2016年12月	5th ASA-ASJ Joint meeting, Hawaii, USA	◎K. Yamakawa, S. Amano	

Two-dimensional mapping of Japanese fricative and affricates spoken by Japanese and Korean	共著	2017年9月	International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech (ISMBS2017), Greece	◎K. Yamakawa, S. Amano	
日本語母語話者の生成範疇境界に基づく韓国語母語話者のツ・チュ・スの判別	共著	2017年9月	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集, 2-11-3, 松山大学	◎山川仁子, 天野成昭	pp.1451-1452,
非日本語母語話者における拡声音声の単語の難易度解析	共著	2018年3月	日本音響学会春季研究発表会講演論文集, 2-P-17, 日本工業大学	◎山川仁子, 天野成昭	pp.1333-1334,
非日本語母語話者の発声した日本語の自然性に関わる変数	共著	2018年9月	日本音響学会秋季研究発表会講演論文集, 2-6-7, 大分大学	◎山川仁子, 天野成昭	pp.803-804,
Proposals of noise-robust spoken words for a broadcast via outdoor loudspeakers, (査読有)	共著	2018年11月	The Journal of the Acoustical Society of America 144, 1804, (Joint Meeting 176th Meeting Acoustical Society of America 2018, Canada)	◎K. Yamakawa, S. Amano	
拡声放送のための聞き取りやすい日本語単語の提案	共著	2019年3月	日本音響学会春季研究発表会講演論文集, 電気通信大	◎山川仁子, 天野成昭	
Identifying acoustic features that cause unnaturalness of non-native speakers' Japanese (査読付)	共著	2019年8月	The 18th International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS2019), Melbourne, Australia	◎K. Yamakawa, S. Amano	pp.1-4
【コラム・その他】					
日本語無声破擦音における母語話者別の音響的特徴の解明	単著	2013年6月	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書若手研究(B)課題番号: 22720173	山川仁子	
日本語音声の自然性を決定づける音響特徴の解明	単著	2017年6月	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書基盤研究(C)課題番号: 26370464	山川仁子	
地方公共団体との取組	単著	2017年6月	2016年度尚綱大学地域連携推進センター活動報告書	山川仁子	pp.7-8
「私のすすめるこの一冊」	単著	2017年11月	日本音響学会誌, 73巻, 11号	山川仁子	pp.739-740
熊本県内企業における多文化共生実現のための調査研究	単著	2018年6月	2017年度尚綱大学地域連携推進センター活動報告書	山川仁子	p.34
日本語音声の自然性を予測する定量的モデルの構築	単著	2020年6月	科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書基盤研究(C)課題番号: 17K02705	山川仁子	

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

(学会活動)

2007年11月	上智大学オープン・リサーチ・センター ヒューマンコミュニケーショングループ 2007年度 第2回研究会 (上智大学) 招待講演 題目:「音声コーパスの分類と可視情報通信技術委員会 コミュニティーツール作業部会 副主査 National Conference on Man-Machine Speech Communication (NCMMSC 2009), Lanzhou, China 招待講演「Visualization method of similarities among multiple speech corpora.」 日本音響学会論文誌 査読委員 日本音声学会企画委員会 委員 日本音響学会東海支部技術講習会「音声の知覚と生成の相互作用をめぐって」講師(愛知工業大学) 題目:「言語習得における音声知覚・音声生成の相互作用」 日本音響学会聴覚研究会幹事 日本音響学会音声コミュニケーション調査委員会委員 ヒューマンインターフェース学会論文誌特集号 Guest Editor 日本音響学会九州支部 会計幹事 日本音響学会論文誌(英文誌)特集号 Guest Editor 第53回事業化マッチングのためのラウンドテーブル講師, 熊本市産業振興課 外国人労働者受け入れに関するWGオブザーバー, 熊本商工会議所 第1回外国人留学生マッチングイベントミニセミナー講師, 熊本国際交流会館, 熊本市産業振興課主催 熊本市職員向け「やさしい日本語」研修講師, 熊本市国際課, 熊本市役所主催 熊本市職員対象「やさしい日本語」ワークショップ講師, 熊本各区役所, 熊本市役所主催 第2回外国人留学生マッチングイベント ミニセミナー講師, 熊本市民会館(熊本城ホール), 産業熊本市地域振興課主催
2008年9月～2009年3月	
2009年12月	
2010年4月～	
2010年4月～2013年3月	
2010年9月	
2016年6月～2019年5月	
2016年9月～現在	
2017年4月～2018年	
2017年4月～2019年3月	
2016年10月～2017年7月	
2018年4月	
2018年10月～2019年3月	
2018年11月	
2019年3月7日	
2019年9月10～12日	
2019年12月	
(競争的研究資金獲得状況)	
【科学研究費補助金採択研究】	<p>基盤研究 (C), 研究分担 (研究代表者: 天野成昭, 愛知淑徳大学) 2009年4月～2012年3月 (研究課題No. 21530782) 「日本語摩擦音・破擦音における母語話者別の知覚・生成範疇境界の研究」</p> <p>若手研究 (B), 研究代表, 補助金額: 4030千円, 2010年4月～2013年3月, (研究課題No. 22720173) 「日本語無声摩擦音における母語話者別の音響的特徴の解明」</p> <p>基盤研究 (B), 研究分担 (研究代表者: 近藤真理子, 早稲田大学), 2010年4月～2014年3月, (研究課題No. 22320081) 「第一言語の韻律特性が日本語学習者の音声知覚・生成に及ぼす影響の解析」</p> <p>挑戦的萌芽研究, 研究分担 (研究代表者: 榊原健一, 北海道医療大学), 2011年4月～2013年3月, (研究課題No.23651182) 「雪中における音場計測と音声明瞭度評価」</p> <p>挑戦的萌芽研究, 研究分担 (研究代表者: 天野成昭, 愛知淑徳大学), 2012年4月～2015年3月, (研究課題No. 24652087) 「言葉の鎖をターゲットとした音声の知覚・生成過程の研究」</p> <p>基盤研究 (B), 研究分担 (研究代表者: 天野成昭, 愛知淑徳大学), 2013年4月～2018年3月, (研究課題No. 25284080) 「日本語における音韻の知覚・生成範疇境界を規定する要因の研究」</p> <p>基盤研究 (C), 研究分担 (研究代表者: 牧勝弘, 愛知淑徳大学), 2013年4月～2016年3月, (研究課題No. 25330209) 「実環境における音空間処理に関する研究」</p> <p>基盤研究 (C) 研究代表, 補助金額: 4550千円, 2014年4月～2017年3月, (研究課題No. 26370464) 「日本語音声の自然性を決定づける音響特徴の解明」</p>

	<p>基盤研究 (B),研究分担 (研究代表者: 榊原健一, 北海道医療大学) 2015年4月～2019年3月(研究課題No.15H03207) 「生成メカニズムに基づく声質の音声学的分類」</p>
	<p>挑戦的萌芽研究,研究分担 (研究代表者: 天野成昭, 愛知淑徳大学) 2015年4月～2019年3月 (研究課題No.15K12494) 「荒天時における拡声音の情報伝達特性の解明」</p>
	<p>基盤研究 (B),研究分担 (研究代表者: 榊原健一, 北海道医療大学) 2016年4月～2019年3月 (研究課題No.16K13221) 「調音運動の時間パタン分析に基づく音声言語に内在する時間構造の解明」</p>
	<p>基盤研究 (C) 研究代表, 補助金額: 4550千円 2017年4月～2020年3月 (研究課題No.17K02705) 「日本語音声の自然性を予測する定量的モデルの構築」</p>
	<p>基盤研究 (C) 研究代表, 補助金額:4290千円 2020年4月～令和5年3月 (予定) (研究課題No. 20K00591) 「音声学と心理言語学を基盤とする聞き取りやすい「やさしい日本語」の研究」</p>
	<p>基盤研究 (A) 研究分担 (研究代表者: 天野成昭, 愛知淑徳大学) 2020年4月～令和6年3月 (予定) (研究課題No.17K02705) 「ポップアウト・ボイスの生成・知覚基盤の解明に基づく高性能拡声音技術の開発」</p>
【その他競争的資金等】	<p>新領域融合研究センター, 2010年度融合研究シーズ探索提案研究助成, 研究代表, 補助金額: 1000千円, 2009年9月～2010年3月 「音響特徴データに基づく音声言語分類手法の確立」</p>
	<p>愛知淑徳大学研究助成 (特定課題研究) 研究代表, 補助金額: 1000千円, 2011年4月～2013年3月 「発声速度を考慮した摩擦音・破擦音の範疇境界の解析」</p>
	<p>愛知淑徳大学研究助成 (特定課題研究), 研究代表, 補助金額: 1000千円, 2013年4月～2015年3月 「東南アジアの言語を母語とする日本語学習者における音声の音響的特徴の解明」</p>
	<p>公益財団法人電気普及財団助成—研究調査関係—, 研究代表, 補助金額: 1500千円, 2017年4月～2019年3月 「外国語の拡声音による情報伝達に関する基礎調査」</p>
	<p>2017年度熊本地方COC+事業「特別プロジェクト」助成, 研究代表, 補助金額: 168千円, 2017年5月～2018年3月 「熊本県内企業における多文化共生実現のための調査研究」</p>
	<p>受託研究, 研究代表, 補助金額: 300千円, 令和元年12月～2020年3月 「外国人への日本語教育の現状と問題点の調査研究」</p>